

平成27年産水稻の収穫量（長崎）

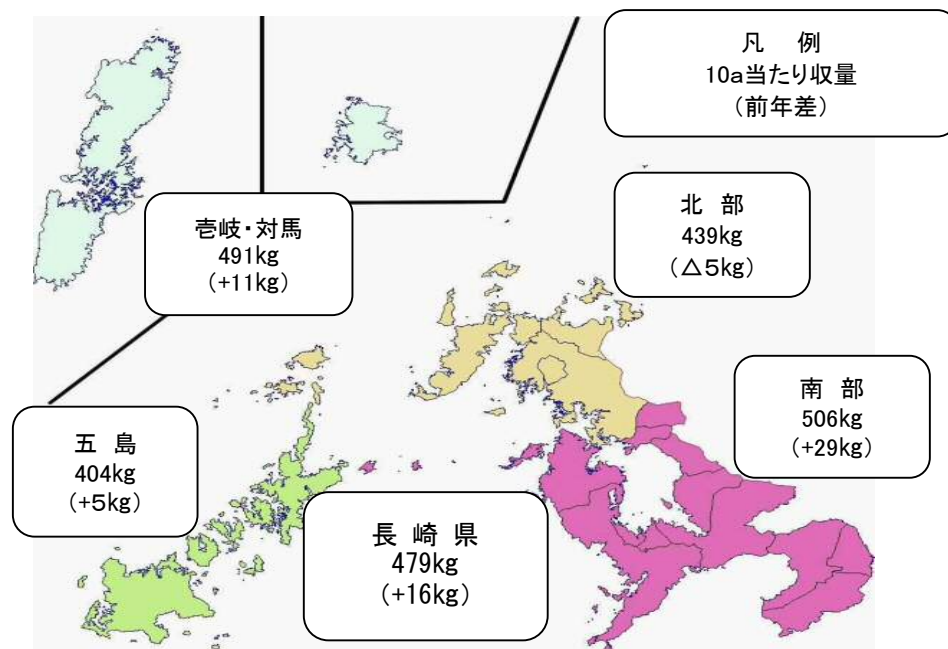
－ 水稻の収穫量（主食用）は5万9,900t（前年産に比べ1,200t減少）－

【調査結果の概要】

長崎県における平成27年産水稻の10a当たり収量は479kg（前年に比べ16kgの増加）で、収穫量（子実用）は5万9,900tとなり、前年に比べて1,200t減少しました。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は5万9,900tとなりました。

図1 作柄表示地帯別10a当たり収量



区分	作柄表示地帯に包括される市町
南部	長崎市、島原市、諫早市、大村市、西海市、雲仙市、南島原市、長与町、時津町、東彼杵町、川棚町、波佐見町
北部	佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町
五島	五島市、新上五島町
壱岐・対馬	対馬市、壱岐市

- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は2ページに掲載しています。
- 収穫量（子実用）とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積に10a当たり収量を乗じたものです。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。

この資料は、以下のアドレスからご覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_all_press.html 】

【調査結果】

1 作柄概況

平成27年産水稻の作柄は、6月から7月下旬にかけての日照不足の影響で分けつが抑制され穂数は少なくなりましたが、8月上旬の気温が高く日照時間が多かったことから1穂当たりもみ数が多くなったため、1㎡当たり全もみ数は平年並みとなりました。

登熟（実入り）は、9月上旬から中旬にかけて気温は低く推移していましたが、9月中旬以降、気温及び日照時間が平年を上回る等、天候に恵まれたことから平年並みとなりました。

この結果、10a当たり収量は479kg（農家等が使用しているふるい目幅ベースでの作況指数は100）となりました。

2 被害状況

気象被害では、日照不足による分けつ抑制や低温による生育の遅れが見られました。

また、8月25日の台風第15号の影響で出穂が早かったほ場ではもみズレが見られました。

病害では、いもち病の発生が平年に比べて多くなりましたが、ウンカ等の虫害は平年に比べて少なくなりました。

表1 平成27年産水稻の収穫量

区 分	作付面積（子実面積）			10a当たり収量		収穫量（子実用）			参考		
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対差	対比				対差	対比			
長 崎 県	ha 12,500	ha △ 700	% 95	kg 479	kg 16	t 59,900	t △ 1,200	% 98	ha 12,500	t 59,900	100

注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

3 「△」は、前年より減少したことを示します。

表2 平成27年産水稻の地帯別の作柄概況

区 分	10a当たり 収 量 ①	(参考)農家等が使用している ふるい目幅で選別			刈 取 期					平 年 比 較			
		10a当たり 収 量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		穂数の 多 少	1穂当たり もみ数の 多 小	全もみ数 の 多 少	登熟の 良 否
								平 年 比 較	前 年 比 較				
県 平 均	kg 479	kg 460	kg 462	100	月 日 8. 26	月 日 10. 14	月 日 10. 28	2日遅	1日早	少ない	多い	平年並み	平年並み
南 部	506	488	487	100	10. 4	10. 17	10. 28	3日遅	並み	少ない	多い	やや少ない	平年並み
北 部	439	417	429	97	8. 23	10. 15	10. 28	2日遅	1日早	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良
五 島	404	386	401	96	8. 21	10. 8	10. 17	4日遅	並み	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
吉 岐・対馬	491	474	468	101	8. 24	10. 6	10. 20	4日遅	2日遅	やや多い	やや多い	多い	平年並み

注：1 10a当たり収量①は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 (参考)農家等が使用しているふるい目幅で選別については、九州においては1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

3 刈取期の始期、最盛期、終期とは、刈取済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

3 水稻玄米のふるい目幅重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合並びにふるい目幅別収穫量（子実用）及び10 a 当たり収量を示すと次のとおりです。

表3 平成27年産ふるい目幅別重量分布状況

作柄表示地帯	計	1.70mm ～1.75mm	1.75mm ～1.80mm	1.80mm ～1.85mm	1.85mm ～1.90mm	1.90mm ～2.00mm	2.00mm以上
県計							
重量割合(%)	100.0	1.3	2.6	3.5	4.9	26.2	61.5
対平均差	-	0.0	0.4	0.2	△ 0.6	0.3	△ 0.3
南部							
重量割合(%)	100.0	1.2	2.3	3.2	4.6	26.4	62.3
対平均差	-	△ 0.1	0.1	△ 0.2	△ 1.0	△ 1.4	2.6
北部							
重量割合(%)	100.0	1.7	3.3	4.1	5.8	26.7	58.4
対平均差	-	0.4	0.8	0.8	0.1	4.5	△ 6.6
五島							
重量割合(%)	100.0	1.5	3.0	3.9	5.4	31.1	55.1
対平均差	-	0.5	1.2	0.8	△ 0.7	9.4	△ 11.2
沓岐・対馬							
重量割合(%)	100.0	1.0	2.4	3.2	3.5	22.9	67.0
対平均差	-	△ 0.1	1.2	0.3	△ 1.1	△ 5.0	4.7

注:1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

表4 平成27年産ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

作柄表示地帯	区分	ふるい目幅別収穫量及び10 a 当たり収量					
		1.70mm選別	1.75mm選別	1.80mm選別	1.85mm選別	1.90mm選別	2.00mm選別
県計	収穫量（子実用）（t）	59,900	59,100	57,600	55,500	52,500	36,800
	10 a 当たり収量（kg）	479	473	460	444	420	295
南部	収穫量（子実用）（t）	33,500	33,100	32,300	31,300	29,700	20,900
	10 a 当たり収量（kg）	506	500	488	472	449	315
北部	収穫量（子実用）（t）	17,200	16,900	16,300	15,600	14,600	10,000
	10 a 当たり収量（kg）	439	432	417	399	374	256
五島	収穫量（子実用）（t）	2,280	2,250	2,180	2,090	1,970	1,260
	10 a 当たり収量（kg）	404	398	386	370	348	223
沓岐・対馬	収穫量（子実用）（t）	6,790	6,720	6,560	6,340	6,100	4,550
	10 a 当たり収量（kg）	491	486	474	459	441	329

注:1 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

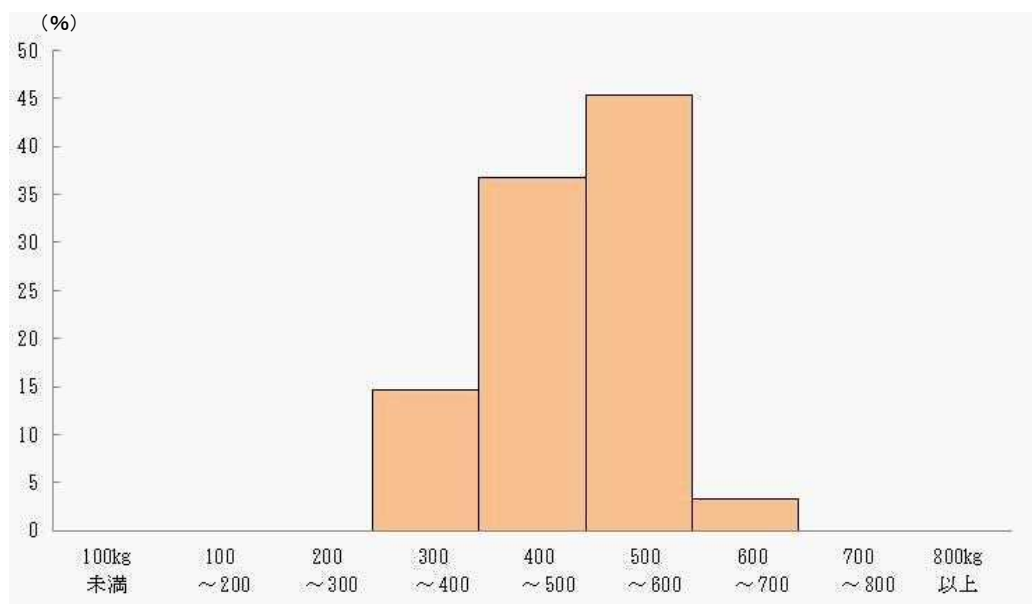
2 ふるい目幅別の10 a 当たり収量とは、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

表5 平成27年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況

区 分		計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
長崎県	筆数割合 (%)	100.0	-	-	-	14.7	36.7	45.3	3.3	-	-
	前年値 (%)	100.0	-	-	1.3	16.0	45.4	35.3	2.0	-	-
	対前年差	0.0	-	-	△ 1.3	△ 1.3	△ 8.7	10.0	1.3	-	-

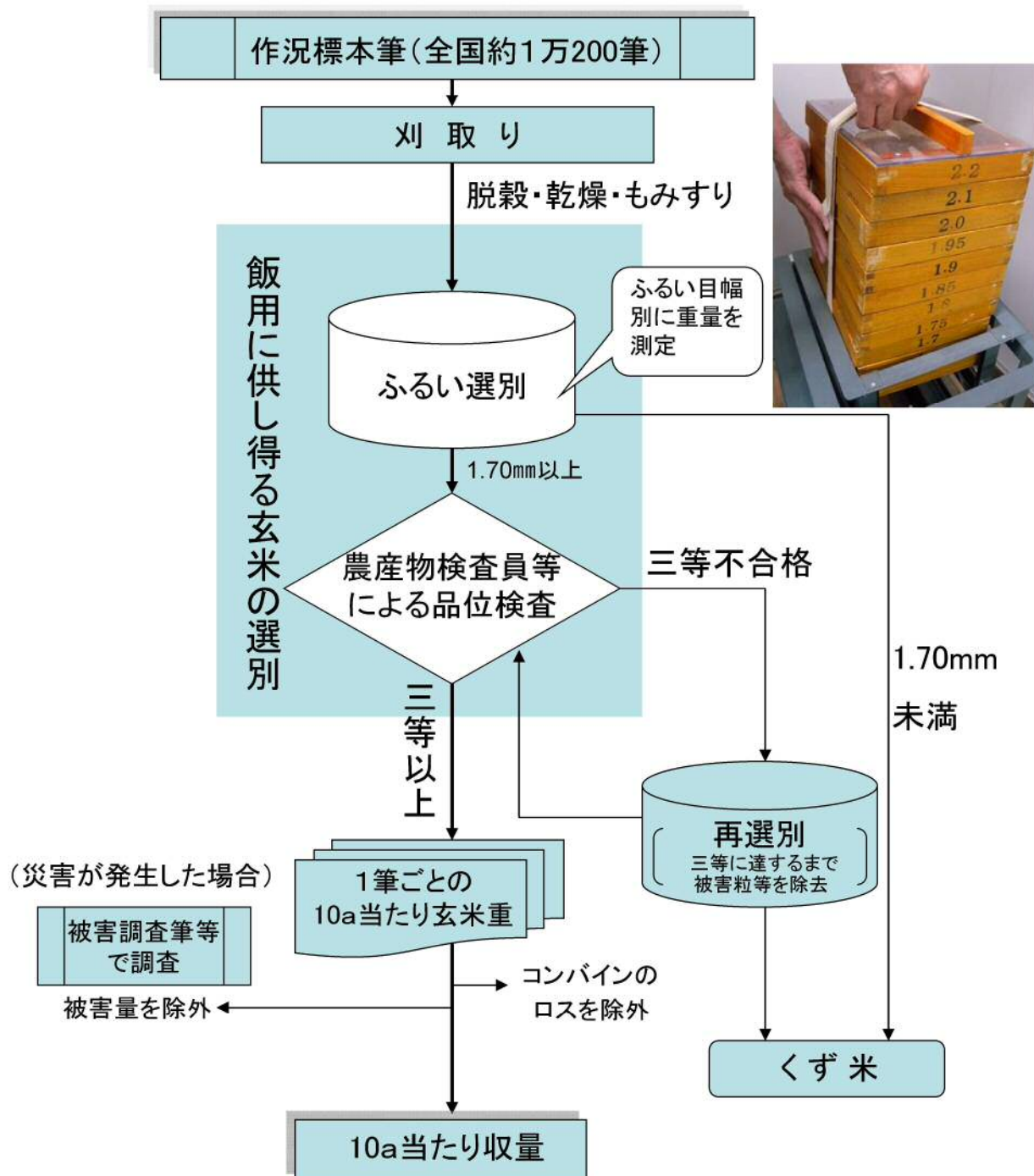
注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

図2 平成27年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（長崎）



【参考1】収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考2】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し（全国で1万200筆）調査している。

全国の全ての土地
(母集団)



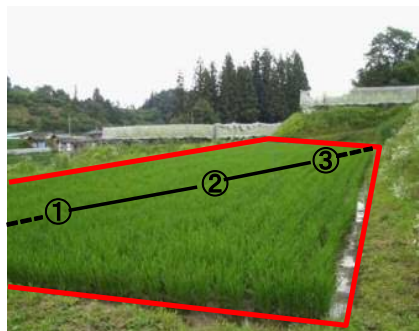
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で1万200筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考3】

水稲（子実用）の年次別推移（長崎）

年産	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	参考		
				主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成元年産	19,600	456	89,400	…	…	107
2	19,400	443	85,900	…	…	103
3	19,000	296	56,200	…	…	68
4	19,500	456	88,900	…	…	105
5	19,600	329	64,500	…	…	75
6	19,900	468	93,100	…	…	107
7	18,800	467	87,800	…	…	107
8	17,600	468	82,400	…	…	107
9	17,200	444	76,400	…	…	101
10	15,700	468	73,500	…	…	105
11	15,600	402	62,700	…	…	88
12	15,200	480	73,000	…	…	104
13	14,700	485	71,300	…	…	105
14	14,400	473	68,100	…	…	101
15	14,200	448	63,600	…	…	96
16	14,500	430	62,400	…	…	91
17	14,700	450	66,200	…	…	95
18	14,700	322	47,300	…	…	68
19	14,600	472	68,900	…	…	100
20	14,300	480	68,600	14,200	68,200	101
21	14,100	479	67,500	14,000	67,100	101
22	14,000	449	62,900	13,900	62,400	94
23	13,700	486	66,600	13,700	66,600	102
24	13,700	468	64,100	13,600	63,600	98
25	13,500	468	63,200	13,500	63,200	98
26	13,200	463	61,100	13,200	61,100	97
27	12,500	479	59,900	12,500	59,900	1) 100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り（飼料用米等を含む。）面積を除いた面積です。
 2 10a当たり収量及び収穫量は、1.7mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。
 4 1) の作況指数は、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
 5 「…」は事実不詳または調査を欠くものです。

【参考4】

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移(長崎)

1 ふるい目幅別重量分布状況の推移

年 産	計	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成18年産	100.0	2.4	4.3	7.5	9.5	35.6	40.7
19	100.0	1.1	1.7	3.3	4.3	26.6	63.0
20	100.0	1.5	2.3	3.8	6.0	26.3	60.1
21	100.0	1.4	2.1	3.8	5.9	26.8	60.0
22	100.0	1.0	1.3	2.7	4.2	21.9	68.9
23	100.0	1.1	1.9	2.9	5.7	28.4	60.0
24	100.0	1.7	2.4	3.8	6.8	26.8	58.5
25	100.0	1.3	2.4	3.5	5.7	25.8	61.3
26	100.0	1.3	2.8	3.6	5.2	25.9	61.2
27	100.0	1.3	2.6	3.5	4.9	26.2	61.5
平均値	100.0	1.3	2.2	3.3	5.5	25.9	61.8
対平均差	—	0.0	0.4	0.2	△ 0.6	0.3	△ 0.3

注：1 平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

2 ふるい目幅別収穫量(子実用)及び10a当たり収量の推移

年 産		1.70mm選別	1.75mm選別	1.80mm選別	1.85mm選別	1.90mm選別	2.00mm選別
平成18年産	10 a 当たり収量 (kg)	322	314	300	276	246	131
19	10 a 当たり収量 (kg)	472	467	459	443	423	297
20	10 a 当たり収量 (kg)	480	473	462	444	415	288
21	10 a 当たり収量 (kg)	479	472	462	444	416	287
22	10 a 当たり収量 (kg)	449	445	439	427	408	309
23	10 a 当たり収量 (kg)	486	481	471	457	430	292
24	10 a 当たり収量 (kg)	468	460	449	431	399	274
	収 穫 量 (t)	64,100	63,000	61,500	59,000	54,700	37,500
25	10 a 当たり収量 (kg)	468	462	451	434	408	287
	収 穫 量 (t)	63,200	62,400	60,900	58,700	55,000	38,700
26	10 a 当たり収量 (kg)	463	457	444	427	403	283
	収 穫 量 (t)	61,100	60,300	58,600	56,400	53,200	37,400
27	10 a 当たり収量 (kg)	479	473	460	444	420	295
	収 穫 量 (t)	59,900	59,100	57,600	55,500	52,500	36,800
	対前年比 (%)	98.0	98.0	98.3	98.4	98.7	98.4

注:1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、県計の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、県計の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

3 ふるい目幅別の収穫量(子実用)については、平成24年産より集計・公表を行っています。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：636単位区 巡回・見積り：21市町

(2) 収穫量調査

作況標本筆調査：150筆 作況基準筆調査：15筆 巡回・見積り：21市町

3 調査事項

水稲の作付面積、登熟状況、被害状況、被害種類別被害面積・被害量及び耕種状況。

4 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

5 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員又は統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 収穫量調査

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるいにより、ふるい目幅別を選別し重量を計測することにより行いました。

6 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめました。

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめました。

ふるい目幅別については、ふるい目幅別の重量の計測結果を集計し取りまとめました。

7 用語の解説

(1)「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2)「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(3)「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(4)「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(5)「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表し

ています。

(6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較で、次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

(8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。

お問い合わせ先

◎本統計調査結果について

九州農政局 長崎支局 統計チーム

電 話：(直通)095-845-5236 FAX:095-842-0897